

安心して老後がすごせるまちへ 必要なサービスが安心して利用できるように

今年度から3年間の高齢者保健福祉計画と介護保険事業の計画をまとめた、「いきいき長寿のまちづくり計画」が策定されました。

「いきいき長寿のまちづくり計画」は、3年ごとに見直しがおこなわれ、提供されるサービス量や施設整備の目標、介護保険料（3年間）などが定められています。

今度の計画では、高齢化率が高い市の中心部（沼田南部圏域）に小規模多機能型居宅介護事業所を1カ所程度整備したいとしています。



「久屋原町に開設された付加介護型入居型施設」屋原町）がオープンしました。

4月1日には、認知症対応型グループホームや認知症対応型デイサービスセンター（利根町と岡谷町）、特別養護老人ホーム（久

議会構成替えの臨時市議会が5月11日に開会予定

議長、副議長の選出や各常任委員会の構成替えのための臨時市議会が、5月11日と12日の2日間の予定で開かれることになりました。

沼田市議会では、議長と副議長の任期を2年とする申し合わせがあり、それにともない常任委員会の構成替えもおこなわれます。

4月から相田議員と高橋議員が、あらたに会派を結成（ぬまた政策クラブ）し、会派数は6となりました。



子どもたちが沼須人形芝居を熱演 第34回 利根沼田伝承古典芸能祭

第34回利根沼田伝承古典芸能祭が12日、利根沼田文化会館で開かれ、硯田太々神楽や薄根太々神楽、沼須人形芝居、みなかみ町子ども歌舞伎などが上演されました。

沼須人形芝居では、8人の子どもたちが「菅原伝授手習鑑四段目 寺子屋の段」を演じ、大きな拍手がもらわれました。



みなかみ町子ども歌舞伎

子どもたちは、昨年7月からつづけ、4月3日の砥石神社のお祭りでも人形芝居を上演しました。

ぶらい散歩 めまた道 沼田地区 その九 三光院

沼田台地の北端にある三光院は、正式には「青雲山三光院智徳寺」といい、沼田最古の寺であり、今から685年前の正中元年（1324）に創建され、沼田氏の守護寺として、井土上町の荘田城の近くにあったものを、寺久保坂の中段に移し、その後現在の場所に建てられました。



境内には、真田伊賀守が三光院前に常楽院（現在の歓楽院）に千手観音を安置し、三光院を閉めようとしたことが、真田伊賀守



歓楽院の千手観音

が病気になり、「三光院の観音様のたたり」ではと思い、灯籠を奉納したといわれていますが、灯籠が奉納された年代と千手観音が安置された時期から考えると、この灯籠は真田伊賀守の病気回復を願って奉納されたものともいわれています。

三光院の「十一面観音」と歓楽院の「千手観音」は、4月29日にご開帳され、見るができます。



税で国民に押しつけようとしています。経済を立て直すには、雇用破壊や銀行の貸し渋りをやめさせ、社会保障制度の充実をすすめるなど、大事なことは、政府が国民のくらしを守る姿勢を鮮明にすることです。

こんにちは。麻生内閣と自民・公明党が、総額十五兆円を超える過去最大規模の「経済対策をとりまとめました。ところがその中身は、巨大港湾に二兆六千億円を費やす大型工事や、公的資金で株式を買い取る「株価対策」など、浪費とばらまきが目立ちます。これでは、大企業・大資産家に税金をばらまき、中小企業と庶民にはお金がまわらず、内需の拡大につながらず、景気も回復しなかったばかりか、借金だけを爆発的に増加させた、一九九〇年代の「愚かな支出」の繰り返しになってしまっています。

こんにちは 大東のぶゆきです